

## あ い さ つ

第一回県立博物館総合調査報告書を出すにあたって、一言ごあいさつを申し上げます。

沖縄県立博物館は、沖縄の自然や人文を調査し、それらの種々の資料を収集して、沖縄の自然や歴史、文化の内外への紹介につとめ、文化の振興発展のために大きな役割りを果しております。それと同時に、このような博物館活動を通じて、地域の人々と密着し、地域文化の向上発展にも寄与するようつとめなければなりません。

そのために、当館ではこれまで沖縄各地の自然や考古、歴史、民俗、美術工芸等を各分野ごとに調査してきました。ところが、各分野ごとに個々の調査は行なっていましたが、一ヵ所を総合的に調査したことはありません。総合調査となるとどうしても範囲が広くなり、当館の数少ない学芸員のみでは長期間を要し、その間には地域に於いてもいろいろと状況が変化するなどして、総合的にまとまった調査を行うことは困難でした。

それで、今年から先ず比較的小さな離島で、沖縄本島に近く、かつ、自然や人文が昔のままもたれている所を候補にあげ、その結果粟国島が選ばれ、第一回の総合調査が行われたわけあります。

村当局や教育委員会の協力のおかげで、多大の成果をあげることができました。

さて、調査で感じたことは、琉球列島は広範な地域に、飛石のごとく点々と浮かぶさんご礁の島々から形成され、各々独特の自然と風土をもち、その中で人々は明るく平和な暮らしを営んできましたが、機械文明の今日、その自然や風土は、開発の名のもとに日に日に破壊され、変ぼうをきたし、そのような風潮が小さな島々にまで及んでいるということです。しかし、幸いなことに粟国島にはまだ及んでいませんでした。

そこでわれわれは、こんご他の離島も計画的に総合調査を行ない、その結果を学術的にも確かな記録を残すべきだと痛感しました。その手始めとして今回の調査報告書を出すことになり、かつ、収集した資料は、博物館や現地でも公開展示し、地域の人々の役にたてたいと思っております。このたびは特別に当山昌直先生の「粟国島の陸上脊椎動物」の寄稿論文も掲載されておりますので併せて読んでいただきたいと思います。

最後にこのたびの調査に当っては、新城実村長をはじめ上地幸雄(収入役)、上原英昌(教育委員長)、安里寛吉(教育長)、仲里秀雄(文化財保護委員長)、玉城繁(粟国小中校々長)、宇垣用康(同教頭)、福本真徳(村役場)の各氏、それに教育委員会、文化財保護委員会、および老人クラブの方々の御協力を頂き、衷心より厚くお礼を申し上げる次第であります。

昭和55年3月

館長 外 間 正 幸

沖  
縄  
県  
立  
博  
物  
館